はじめに

今日、少子高齢化社会の到来や産業経済の構造的変化、雇用形態の多様化・流動化などを背景として、将来への不透明さが増幅するとともに、就職・進学を問わず、生徒の進路をめぐる環境は大きく変化しています。また、「フリーター」や「ニート」の増加が大きな社会問題となって、若者の社会的な自立に対する支援が国の重要課題に位置付けられるようになっています。

平成16年1月に取りまとめられたキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議の報告書では、キャリア教育を児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育としてとらえ、学校教育活動全体を通して、児童生徒の発達段階に応じ、組織的、系統的に実践していくことが必要であるとしています。特に、中学校や高等学校においては、小学校段階からの一貫した指導の考え方を理解するとともに、進路指導を中核としてキャリア教育の実践に取り組むことを求めています。また、本県においても、平成18年度から本格的にキャリア教育に取り組むための施策が動き出します。

このようなことから、本県におけるキャリア教育の推進を図ることをねらいとして、現在の教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、よりよい実践に向けたプログラムとして再構築するための考え方や具体的な手だてを本冊子にまとめました。校内研修や進路指導の工夫・改善のための参考資料としてご活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力委員及び指導・助言の方々に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

栃木県総合教育センター所長

佐　藤　信　勝

中高連携を図るキャリア教育の推進
に関する調査研究について

総合教育センターでは、「中高連携を図るキャリア教育の推進に関する調査研究」として、中学校及び高等学校におけるキャリア教育推進の中核となる進路指導の工夫・改善に関する研究に取り組みました。本冊子は以下の委員、指導・助言者の協力を得て作成したものです。

○ 研究協力委員（７名）

宇都宮市立姿川中学校	教諭	小田　春美
栃木市立栃木南中学校	教諭	須藤　幸子
那須塩原市立高林中学校	教諭	山口　新悟
那珂川町立馬頭中学校	教諭	佐藤　明彦
栃木県立壬生高等学校	教諭	和久井　誠一
栃木県立真岡女子高等学校	教諭	田崎　浩二
栃木県立氏家高等学校	教諭	石嶋　啓造

○ 指導・助言者（２名）

上越教育大学　大学院発達臨床コース	助教授	三村　隆男
労働大学校　職務・キャリア分析部門	副主任研究員	下村　英雄

○ 研究委員（９名）

栃木県教育委員会事務局	学校教育課	副主幹	野島　忠夫
栃木県教育委員会事務局	学校教育課	指導主事	青木　徹
栃木県総合教育センター	研修部	指導主事	中山　観
栃木県総合教育センター	研修部	指導主事	植木　淳
栃木県総合教育センター	教育相談部	指導主事	梅澤　圭子
栃木県総合教育センター	研究調査部	副主幹	小森　祥一
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	矢口　真一
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	吉澤　正光
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	小川　浩昭

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　目　次　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

Ⅰ　キャリア教育を理解するために　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Q1　キャリア教育とはどのようなものか？　・・・・・・・・・ 3

Q2　キャリア教育で育成を目指す能力や態度とは どのようなものか？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Q3　なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む 必要があるのか？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Q4　キャリア教育の視点を生かすことで進路指導 の展開はどのように変わるのか？　・・・・・・・・・・・・ 20

Ⅱ　組織的・体系的なキャリア教育を実践するポイント
－「能力や態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発に向けて－　・・・ 25

POINT 1　キャリア教育を教育課程に位置付けて、 学校教育全体で展開する　・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

POINT 2　目標や評価の観点を明確にして系統的な 進路学習を展開する　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

POINT 3　活動のねらいを明確にし、能力や態度に 着目して体験的な活動の成果をとらえる　・・・・・ 39

POINT 4　ガイダンスとカウンセリングとをつなぐ　・・・・ 52

Ⅲ　キャリア教育に関する文献や資料　・・・・・・・・・・・・・・ 61